ベトナムの主要旅行会社と中央日本エリアへの誘客に向けた意見交換を実施

～将来性の高いベトナム市場に向け、広域周遊観光の認知拡大と旅行商品造成を目指して～

2026 年 10 月 11 日（日）、独立行政法人日本政府観光局（JNTO）ハノイ事務所が主催する「ベトナム旅行会社視察ツアー」において、福井市内で開催された意見交換会に参加しました。

本視察ツアーは、ベトナムの主要旅行会社を日本に招請し、従来のゴールデンルートに加え、日本各地の魅力を体感してもらうことで、地方への誘客促進と旅行商品の造成につなげることを目的に実施されたものです。

今回の視察では、名古屋城や岐阜・関、美濃、高山、白川郷、金沢、福井、滋賀、三重、伊勢神宮など、中央日本エリアを広域に巡る行程が組まれ、日本の歴史・文化、自然景観、食、伝統工芸、地域ならではの体験など、多彩な観光資源に触れていただきました。

当日の意見交換会では、中部国際空港、石川県、福井県、えちぜん鉄道、あわら市観光協会とともに、当機構からも中央日本エリアの概要や広域周遊観光の魅力についてプレゼンテーションを行いました。富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀の 9 県を結び、名古屋をゲートウェイとして各地域をつなぐ周遊ルートや、各県の食文化、観光コンテンツなどを紹介し、ベトナム市場における新たな旅行商品造成の可能性を提案しました。

意見交換では、参加した旅行会社の皆様から、中央日本エリアの豊かな観光資源や、複数の地域を組み合わせて楽しめる周遊観光に対して高い関心が寄せられました。一方で、ベトナム市場の現状についても率直な意見をいただきました。

現在、ベトナムからの訪日旅行者は初めて日本を訪れる方が多く、旅行商品の約 8 割は大阪・京都・東京を中心としたゴールデンルートが占めているとのことです。そのため、中央日本エリアの魅力が市場に広く認知され、実際の旅行商品として定着するまでには、一定の時間を要するとの見方も示されました。

こうした意見は、今後のベトナム市場における誘客活動を考えるうえで、非常に重要な示唆となりました。中央日本エリアには、ゴールデンルートとは異なる日本の原風景や地域固有の文化、食、自然、伝統産業など、ベトナムの旅行者に新たな日本の魅力を提案できる観光素材が数多く存在しています。

ベトナムは今後の訪日旅行市場として大きな可能性を持つ、重要なターゲット市場です。だからこそ、短期的な送客実績だけを追い求めるのではなく、現地旅行会社との継続的な関係構築や情

報発信、中央日本エリアの認知度向上、そして各地域をつなぐ魅力的な旅行商品の造成に、長期的な視野を持って取り組んでいくことが重要だと考えています。

当機構では、今後も関係機関や地域の皆様と連携しながら、ベトナム市場における中央日本エリアのブランド確立と、広域周遊観光のさらなる拡大に向けた取り組みを推進してまいります。

（意見交換会場の一コマ）

